View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kansai University Repository

関西大学学術リポジトリ
Kansai University Institutional Repository

関西大学泊園文庫藏自筆稿本目録稿 ： その（1）

著者	城山 陽宣
雑誌名	関西大学東西学術研究所紀要
巻	44
ページ	55-89
発行年	2011-04
その他のタイトル	Kansai Daigaku Hakuen Bunko Zo Jihitsu Kohon Ko 関西大学泊園文庫藏自筆稿本目録稿 (Manuscripts on the List of Book Titles in own hand writings Store in Hakuen 泊園 Library at Kansai University) : The first
URL	http://hdl.handle.net/10112/6070

関西大学泊園文庫藏自筆稿本目録稿

――その（1）――

城　山　陽　宣

Kansai Daigaku Hakuen Bunko Zō Jihitsu Kōhon Kō 関西大学泊園文庫藏自筆稿本目録稿 (Manuscripts on the List of Book Titles in own hand writings Stored in Hakuen 泊園 Library at Kansai University)

―The first―

SHIROYAMA Takanobu

Kansai Daigaku Hakuen Bunko Zōsho Shomoku 関西大学泊園文庫藏書書目 (The List of Book Titles Stored in Hakuen Library at Kansai University; Abbreviated as *Old Book List* hereafter) was edited in 1958. It was due to the donation from Fujisawa family on March in 1951, who had run the Hakuen Shoin 泊園書院 (Hakuen Book Library) which had been one of the biggest library in Osaka area since the end of Edo period to the early Showa era. They had contributed books and related articles stored there to the university.

Since then, number of scholars had made use of this book list in order to handle the articles stored in Hakuen Library. However, the study on catalogues and bibliography in our country had developed since the compilation of the *Old Book List* and book lists which fully adopted the fruits of such development have appeared one after another. As a result, the *Old Book List* unfortunately turned out to be one with plenty of academic imperfections.

In addition, the *Old Book List* left the lists for the books and articles by Fujisawa Togai 藤澤東畡 , Nangaku 南岳 , Kokoku 黄鵠 and Koha 黄坡 in their own hand writings, which could be understood as the main articles amongst Hakuen Library, unedited. In *Kansai Daigaku Hakuen Bunko Jihitsu Kōhon Mokuroku*

ni Tsuite 関西大学泊園文庫自筆稿本目録について (About the List of Books and Articles in Handwritings Stored by Hakuen Library at Kansai University) [In *Ajia Bunka Kōryū Kenkyū* アジア文化交流研究 (Journal of Studies on Cultural Alliance among Asia) Vol 5. 2010], Azuma Jyuji 吾妻重二 insisted on that without arranging these books and articles in handwritings, it would be impossible to investigate the core points amongst the history of *Kangaku* 漢学 (Study on China) in Osaka which developed with Hakuen Book Library as its centre. However, the compilation of book lists for books and articles in handwritings which is the primal step for arranging these manuscripts has not yet done at the moment. Therefore, we do not even have a clue to approach a fraction of the history of *Kangaku* in Osakain the *status quo*.

Therefore, the next step is to arrange the book list for the books and articles in handwriting which was not fulfilled in the *Old Book List* and then to retrieve flaws in the *Old Book List*. By so doing, the truly completed *Old Book List* will be attempted.

Yet, the books and articles written in handwritings are very difficult to decipher and therefore it would be hard to arrange them. Hida Kōzo 肥田晧三 , who was an authoritative scholar in the field of modern bibliography and had been working in our university, had already compiled a bibliography of some books and articles in handwritings for the purpose to create a book list. However, his bibliography only contains small amount of books and articles amongst the whole and it is pity that his work hints that there had been left much more to research. It is, nonetheless, only to show us how difficult to arrange the books and articles in question had been.

Under these circumstances, the author decided to compile a bibliography for the book list in order to create a new *The List of Book Titles Stored in Hakuen Library at Kansai University*. Each chapter will be open to the public once it has been compiled, so to invite the advices and comments from other experts. As the author who is attempting to arrange the books and articles lacks knowledge and ability, there would be number of mistakes. Thus, it would be greatly appreciated to have any comments and advices.

はじめに

江戸末期から昭和初期、大阪有数の規模を誇った漢学塾として、泊園書院は特筆大書されるべき存在であろう。

泊園書院は、藤澤家の四世三代、東畡・南岳・黄鵠・黄坡の鴻儒によって運営され、二百年以上の長きにわたって大阪の学問を支えた学校である。その間に、牧野謙次郎・島田欽一・金谷治など多くの漢学者・中国学者を世に送り出しただけでなく、その他、多くの分野にわたって有為な人材を輩出したことは周知の事実であり、代表的な人物として陸奥宗光や岸田吟香などが挙げられようが、彼らは後に我が国の政治・ジャーナリズムに多大な貢献を為した存在である。また、武田長兵衛など実業界に名を残した人物も少なくない。こうした事実は、泊園書院が漢学的教養の伝授という一漢学塾としての役割に留まらず、漢学を通した人間哲学の形成に重きを置き、婦女子の教育も手掛けたという総合的な学校であったことを雄弁に物語るであろう。我が国の中国学史・教育史上、泊園書院が残した足跡には、重要な意義があると言わねばなるまい。

その泊園書院も、時勢の急速な変化と黄坡先生の死去により、学校としての役割を終えることとなる。

1951年３月、関西大学は、藤澤家より書院所蔵の書籍及び書画・印章などの関連資料の寄贈を受け、関西大学総合図書館内に「泊園文庫」として収蔵することとなった。泊園文庫は、約二万数千冊にのぼる書籍を中心に、東畡以下、泊園院主の自筆稿本約六百二十点余、さらに印章約百七十顆、多数の書画を含む一大コレクションである。それは、日本近世・近代における大阪文化の縮図であると同時に、漢学・中国学における貴重な資料の宝庫でもあった。

関西大学では、この貴重な資料の活用のため、早速整理に着手し、1958年、『関西大学泊園文庫蔵書書目』を編纂して、文庫資料の書籍検索の便に対する要求の一部に応えた。しかし、この書目では、近世・近代の大阪の学術や文化の精髄ともいえる東畡・南岳・黄鵠・黄坡の自筆稿本の整理は行われなかったのである。

確かに、自筆稿本資料は難読であり、整理に困難を伴う。かつて近世書誌学の権威である本学の肥田晧三氏によって、一部の自筆稿本に目録用の書誌が準備されたが、全体から言えばわずかな分量に止まっている。このことからも、本資料の整理を行うことがいかに難しいかを十分に窺い知れるであろう。以降、泊園文庫の整理事業は停滞を続けることとなる。

このような状況に対して変化の機運が生じたのは、ごく近年になってからである。

泊園記念会の五十周年の記念事業を控え、本学の吾妻重二教授は、自筆稿本の資料的な貴重性を強調、同時に文部科学省科学研究費・基盤研究（A）「東アジアにおける伝統教養の形成と展開に関する学際的研究：書院・私塾教育を中心に」を申請・採択され、整理事業に着手した。

また、平成21年度から22年度において文部科学省の教育研究高度化のための支援体制整備事業の一環としてリサーチ・コーディネーターが設置され、筆者がその任に当たって泊園文庫の整理を担当する幸運にも恵まれた。さらに、平成21年度・22年度、文部科学省科学研究費・若手研究（B）「東アジアにおける儒教の基礎的研究」が採択され、研究及び整理に多大な便宜を受けることができた。

2010年２月、吾妻教授と筆者で泊園文庫の整理方針を策定した。その結果、まず、未整理の自筆稿本の整理作業を早急に行い、その後、既存の『関西大学泊園文庫蔵書書目』に修正を加えて、ともに将来のデジタル・アーカイブスの構築に備えていくこととなった。

その際、特に自筆稿本の整理において、誤解や錯誤が予想される。よって、ある程度目録用の書誌を完成させた後、ひと区切りごとに目録稿の形式で世に問い、ご批正を待つこととした。本稿は中間報告であり、以後機会があるたびに修正を施していきたいと考えている。筆者は浅学非才であり、多くの間違いを犯していると思われる。大方のご教示・ご叱正をお願いしたい。

凡例

【公開用】欄の記入事項

①〔書名〕　書名を記入する。仮の書名は［○○○○］のように記入する。書名の確定については、まず、内題（巻頭書名）により、次に外題（題簽・書き題簽・書付け外題）によることを基本とする。それらに当てはまらない場合は、見返し・版心などにより判断している。

②〔巻数など〕　巻数・帙数・冊数を記入する。

③〔著者名〕　著者名などを記入する。刊本は、書籍巻頭の葉の表の情報をすべて（著・編・評・校など）記入する。

抄本は、著者と抄写者を記入する。

④〔刊年・抄写年など〕　抄写本は抄写年が明確な場合、抄写年を年号で記入する。版本は、刊行年を年号で記入する。

⑤〔寸法〕　書籍の外形寸法と郭内の寸法を記入する。なお、自筆稿本の場合、大和綴の類の書籍が多い。こうした書籍の寸法を計測する場合、書籍のどの部分を計るのかで、その寸法が大きく異なることになる。今回の作業では、まず、書籍の最大の部分を計測することにす

る。

⑥〔装丁〕　書籍・資料の装丁・形体を記入する。装丁の用語は厳密を極め多種多様であり、不統一な感が否めない。たとえば、「和綴じ」と「袋綴じ」は、同様の装丁を指していることも多い。したがって、我が国で極めて一般的な書籍の装丁方法である「和綴じ」や「袋綴じ」は、「和綴じ」に統一し、自筆稿本に多く見られる「仮綴じ」、「紙縒綴じ」は、「大和綴じ」に統一する。中国の装丁の方法にも様々なものがあるが、ここでは「線装」に統一する。

⑦〔内題・外題〕　内題と外題を記入する。ただし、「書き付け外題」「書き題簽」「表紙中央に書き付け外題」「表紙右上に書き付け外題」「外題なし」等のように、その書籍の情況に応じて、内題と外題の特徴を記入する。なお、外題は通常表紙の左上にあるので、その場合は特記しない。

⑧〔藏書印〕　藏書印を記入する。「巻頭に「泊園書院文庫」印」等のように、どこにどのような蔵書印が押されているか記入する。

⑨〔版式・書式〕　書籍の書式（版式）・界線の有無・毎半葉の行数と字数・用紙（版心）の情報の順に記入する。なお、行数不定の場合には記入しない。また一行の字数に出入りがある場合、「20字内外」のように記入する。字数が不定でも、その差が２～３字程度である場合には、「17字至20字内外」のように記入し、その差異が甚だしい場合は記入しない。

⑩〔その他〕　書き入れ奥書（識語）などを記入する。書き入れがある場合には、句点・朱点・送仮名・批点書き入れあり・欄外貼り付けあり・書き入れ多し・欄外書き入れあり・わずかに欄外書き入れあり・固有名詞の上に朱線あり・朱墨書き入れあり・まま朱墨書き入れあり・朱筆書き入れ多し…等のように、その特徴を記入する。また、奥書（識語）がある場合には可能な限り釈読して記入する。

【内部用】欄の記入事項

①〔書名〕　見返し、版心の書名・帙の題簽など書名に関わる情報をすべて記入する。また、書名を確定できない場合は、その理由を記入する。なお、帙に複数の書籍が入れられている場合は、同じ帙の中の第一冊目に記入する。なお、調査の際に依拠した書目等の資料も必要があれば記入する。

②〔挟みもの〕　挟みものがある場合、挟まれていた場所とその特徴を明記する。先に肥田教授により作成されている書誌や重要な内容のものは記録する。

③〔その他・特記事項〕　〔公開用〕欄の〔書名〕〔巻数など〕〔著者名〕〔刊年・抄写年など〕〔蔵版者〕〔寸法〕〔装丁〕〔内題・外題〕〔藏書印〕〔版式・書式〕〔その他〕の各項目につい

て、気が付いたことや注意点があれば記入する。また、必要があれば、他の書目などの記述も記入する。

④〔解題〕　自筆稿本・貴重書について順次作成する。

注意点

① 書名や著者名などで不明な部分や不確定な部分、あるいは注意が必要な項目や特記事項がある場合は、●でペンディングの処理をする。

② 書誌学の用語は、長澤規矩也『図書学辞典』（汲古書院、1979年）に依拠するが、適時『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）等も参照する。また、必要が認められる場合には、〔内部用〕の項目に、その情報を記入する。

③ 検索の便を図るため、すべての数字にはアラビア数字（半角）を用いる。

泊園文庫自筆稿本書目稿

LH２＊甲＊１-１（～１-２）

【公開用】

〔書名〕**易纂**

〔巻数など〕１帙２冊

〔著者名〕藤澤東畡　藤澤東畡筆

〔抄写年〕

〔葉数〕（１冊目）34葉　（２冊目）40葉

〔寸法〕22.6×16.1〔郭内〕17.3×12.5

〔装丁〕和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　書き題簽「東畡先生手澤　易纂　一（二）」

〔藏書印〕第一冊巻頭・第二冊巻頭に「泊園書院文庫」印

〔版式・書式〕10行20字内外双行注　四周単辺　有界　藍刷罫紙を用う（一部白紙を用う）

〔その他〕句点　欄外貼り付け・書き入れ多し

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「東畡先生易纂」

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕本書は題簽「東畡先生易纂」の帙に収む

LH２＊甲＊２

【公開用】

〔書名〕**辨非物**

〔巻数など〕１帙１冊

〔著者名〕藤澤東畡　藤澤東畡筆

〔抄写年〕

〔葉数〕97葉（墨付96葉）

〔寸法〕22.1×15.3〔郭内〕18×12.8

〔装丁〕和綴じ

〔内題・外題〕内題「辨非物」 書き付け外題「辨非物」

〔藏書印〕巻頭に「泊園書院文庫」印　巻末に「泊園書院」印
〔版式・書式〕10行17字至20字内外　左右双辺有界
〔その他〕句点　欄外書き入れ多し　奥書あり●
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「辨非物」
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕「泊園書院文庫」印　「泊園書院」印　本書は題簽「辨非物」の帙に収む

LH２＊甲＊３（～13）
【公開用】
〔書名〕［**東畩文稿**］
〔巻数など〕２帙11冊
〔著者名〕藤澤東畩　藤澤東畩筆
〔抄写年〕●
〔葉数〕（１冊目）46葉　（２冊目）50葉（墨付23葉）（３冊目）44葉（墨付41葉）（４冊目）47葉（墨付46葉）（５冊目）48葉　（６冊目）45葉　（７冊目）50葉（墨付27葉）（８冊目）43葉（墨付42葉）（９冊目）47葉（墨付44葉）（10冊目）58葉（墨付56葉）（11冊目）49葉（墨付45葉）
〔寸法〕（１冊目）22.2×15.6〔郭内〕18×12.7　（２冊目）22.1×15.3〔郭内〕17.9×12.5　（３冊目）22.8×15.8〔郭内〕17.3×12.6　（４冊目）22×15.5〔郭内〕18.9×12.6　（５冊目）22.7×15.6〔郭内〕17.6×13.5　（６冊目）23.3×16.3〔郭内〕20.7×13.8　（７冊目）22.7×15.8〔郭内〕17.4×12.6　（８冊目）23.2×16.4〔郭内〕18×13.3　（９冊目）22.4×15.4〔郭内〕18×12.8　（10冊目）22.6×15.6〔郭内〕19.1×12.2　（11冊目）23.2×16〔郭内〕18.7×13.3
〔装丁〕（１冊目～８冊目）（10冊目～11冊目）和綴じ（９冊目のみ）大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　外題なし
〔藏書印〕（１冊目）巻末に「東畩」印　（３冊目）巻首に「泊園書院文庫」印　（４冊目）巻首に「泊園書院文庫」印　（６冊目）第３葉の表に「泊園書院文庫」印　（７冊目）第２葉の表に「泊園書院文庫」印　（８冊目）巻頭に「泊園書院文庫」印　（９冊目）巻頭に「泊園書院文庫」印　（10冊目）巻頭に「泊園書院文庫」印　巻末に「泊園文庫」印　（11冊目）巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕（１冊目）９行16字至20字内外　四周単辺有界　（２冊目）９行20字至23字内外

四周単辺有界　（３冊目）10行　四周単辺有界　（４冊目）10行18字至20字内外　四周単辺有界　（５冊目）10行　四周双辺有界　（６冊目）10行　左右双辺有界　（７冊目）10行　四周単辺有界　（８冊目）10行16字至20字内外　四周単辺有界　「欏園藏」の用箋を用う　（９冊目）10行　左右双辺有界　（10冊目）９行　四周単辺有界　（11冊目）９行　四周単辺有界　「大全巻」の用箋を用う

〔その他〕（１冊目）朱点　書き入れ　１冊目の奥書に「次赤井東海先生述懐芳韻、先時江都地震、先生隕楼傷脚、壮雄自若古稀春跛疾何曽損性真難踵高門祇見潔常安細席不言貧璞非荊岳負臣哭袴是韓廷明主顰況復文章年脛専冊心汎楼萬方人」とあり　（２冊目）朱点　朱墨書き入れ　（３冊目）朱点　句点　送り仮名　返点　書き入れ　（４冊目）朱点　句点　書き入れ　奥書に「玉井大夫□□　白井□之助　中村興之助」、「八日ノ晩三千二百五十、」の朱書きあり　（５冊目）朱点　句点　書き入れ　奥書あり●　（６冊目）朱点　句点　朱墨書き入れ　　奥書あり●　（７冊目）朱点　句点　送り仮名　返点　書き入れ　奥書あり●　（８冊目）朱点　句点　送り仮名　書き入れ　奥書あり●　（９冊目）句点　書き入れ　（10冊目）書き入れ　（11冊目）朱点　句点　送り仮名　返点　書き入れ　奥書あり●

【内部用】

〔書名〕本書の書名は帙の題簽による●　（１冊目）表紙左下に「巻四」の書き入れあり　以下、帙の題簽「東畧文稿」「東畧文稿　上」（２冊目）表紙左下に「巻五」の書き入れあり　（３冊目）表紙左上に「手録」、左下に「巻六」の書き入れあり　（４冊目）表紙左下に「巻八」の書き入れあり　（５冊目）表紙左下に「巻九」の書き入れあり　２葉表に「泊園文稿」とあり（巻頭書名ではない）（６冊目）表紙左下に「巻十一」の書き入れあり　以下、帙の題簽「東畧文稿」「東畧文稿　下」（８冊目）表紙左下に「十二」の書き入れあり　（11冊目）第１葉の表に「泊園雑記」とあり（巻頭書名ではない）

〔挟みもの〕（６冊目）第26葉の葉中に挟みものあり：筆書きの簡単なメモ　第44葉の葉中に挟みものあり：筆書きの簡単なメモ　（８冊目）第38葉の袋とじの中に挟みものあり：『礼記』曲礼の経文と注釈を抄写したもの。何らかの版本を抄写したものか　（11冊目）第１葉の表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「泊園雑記　一冊　藤沢東畧筆。「大全巻」用箋に各種メモ。中に年号「嘉永」の出典、御觸書之寫、清明軍談目録、天保十二年辛丑諸大名御觸之寫、天保三年十月琉球貢使行伍姓名等の寫しあり。」

〔その他・特記事項〕（６冊目）中山城山『黄庭内景經略注』を収む　（７冊目）「茶式」「履軒古韵」など手録の類を収む　（８冊目）第17葉の表：「天保七年秋七月上浣」（抄写時期確定のための参考として）（９冊目）本巻第一篇「〇子曰夷狄之有君章」の「子曰夷狄之有君…」と

は『論語』八佾篇の文章　（10冊目）表紙は関大移行の後のものか●　藩が藤沢昌蔵に対して出した命令など　もと三冊（「本藩號令」「軍令」「諸使番並姓名」）であったものを合本としたもの　（11冊目）表紙は関大移行の後のものか●〔整理概略〕本書［東畩文稿］は、関西大学編入後の整理で、一冊ごと別々に書誌が作成されながら、「東畩文稿」と題する上下の帙に収められ、各冊ごと暫定的に［文稿］や［手録］を書名として付されている。しかし、以下の〔解題〕で考証しているように、本書が何らかの方針のもとに一書にまとめられようとしていたと考えるのであれば、「東畩文稿」の上下の帙の中の書籍についても、やはり一つの［東畩文稿］として書誌を作成するべきであろう。なお、書名は内容から考ると「東畩文稿初稿」や「東畩雑稿」の類が望ましいが、整理上の混乱を防止するため、ひとまず、帙の題簽の「東畩文稿」を書名として整理しておくこととする　本書は題簽「東畩文稿　上（下）」の帙に収む

〔解題〕本書・「東畩文稿」は、藤澤東畩の現存する最も初期の文集である。その内容は、雑記稿と手控えよりなる。本書の成書については、元々、各冊別々に十何冊にもわたっていた東畩の雑記稿や手控えを、後に何らかの方針の下にまとめていったと考えるのが妥当であろう。なぜなら、各冊の表紙の一部には巻数が書き付けられており、本書に対して、何らかの編纂作業が行われた痕跡の一つと見なされるからである。しかし、書名が記されていないことからも理解されるように、その編集作業の時に本書をまとめ上げることはできなかった。その後、本書の１冊目が「巻四」から始まることからも理解されるように、一部が欠落した後に、関西大学編入に至ったと考えられる。

LH２＊甲＊14-１（～14-３）

【公開用】

〔書名〕**泊園文稿**

〔巻数など〕１帙３冊

〔著者名〕藤澤東畩

〔抄写年〕

〔葉数〕（１冊目）74葉（墨付73葉）（２冊目）82葉（墨付72葉）（３冊目）68葉（墨付64葉）

〔寸法〕（１冊目）23.7×16.5〔郭内〕20.3×12.3　（２・３冊目）23.6×17.1

〔装丁〕和綴じ

〔内題・外題〕内題「泊園詩稿」　書き付け外題「泊園文稿　巻一（巻二）（巻三）」

〔藏書印〕１冊目表紙に「堅齋」印

〔版式・書式〕（１冊目）10行20字内外　上下双辺有界　「資生館藏書」の用箋を用う　（２・３

冊目）10行20字内外双行注　無辺無界
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「泊園文稿」（１冊目）扉に「藤東畩文稿　三」（３冊目）書き付け外題なし
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕〔著者名など〕藤澤東畩筆になるか●　本書は題簽「泊園文稿」の帙に収む

LH２＊甲＊15
【公開用】
〔書名〕**泊園詩稿**
〔巻数など〕１帙１冊
〔著者名〕藤澤東畩　藤澤東畩・南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕48葉（墨付43葉）
〔寸法〕23.3×16.3
〔装丁〕和綴じ
〔内題・外題〕内題「泊園詩稿」　書き題簽「泊□詩稿」
〔藏書印〕巻頭に「甫印」印
〔版式・書式〕10行20字内外双行注　無辺無界
〔その他〕朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「泊園詩稿」
〔挟みもの〕表紙前に紙片あり：刷物　第１葉の表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「泊園詩稿　一冊　藤澤東畩・南岳等筆　〔年代不詳〕　薄茶色表紙　美濃本　二三・五×一六・五糎　四十三丁」　第40葉裏と第41葉表の間に挟みものあり：「遊□福寺」「題古木竹石圖」●　第43葉の袋とじの中に挟みものあり：欄外に「縦二十字」「横十行」とある原稿用紙
〔その他・特記事項〕本書は題簽「泊園詩稿」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊16

【公開用】

〔書名〕[東畩日記]

〔巻数など〕1帙1冊

〔著者名〕藤澤東畩　藤澤東畩筆

〔抄写年〕●

〔葉数〕48葉（墨付12葉）

〔寸法〕12.7×19〔郭内〕10.3×15.7

〔装丁〕和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　外題なし

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕13行14字至18字内外　四周単辺有界

〔その他〕句点　書き入れ　奥書あり●

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「東畩日記」 本書の書名は帙の題簽による●

〔挟みもの〕第1葉の表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「甲申　文政七年　東畩三十一才」

〔その他・特記事項〕〔抄写年〕第3葉表に「甲申元年」とあり（抄写時期確定のための参考として）●　本書は題簽「東畩日記」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊17

【公開用】

〔書名〕[東畩先生稿本]

〔巻数など〕1冊

〔著者名〕藤澤東畩　藤澤東畩筆

〔抄写年〕

〔葉数〕20葉

〔寸法〕25×17.2

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「東畩先生稿本」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕11行20字内外双行注　無辺無界
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「東畧先生稿本」
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕精写本　裏表紙なし　本書は題簽「東畧先生稿本」の帙に収む

LH２＊甲＊18
【公開用】
〔書名〕**大阪北邸朝宿館棟碑文**
〔巻数など〕１冊
〔著者名〕藤澤東畧　藤澤東畧筆
〔抄写年〕●
〔葉数〕３葉
〔寸法〕28×20.2
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「大阪北邸朝宿館棟碑文」 書き付け外題「大阪北邸朝宿館棟碑文」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕９行16字内外双行注　無辺無界
〔その他〕朱点　墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕表紙の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「大阪北邸朝宿館棟碑文　一冊　仮綴　藤澤東畧撰。自筆定稿本。嘉永三年。奥に「嘉永三年庚戌夏五月上浣　恩俸生　藤澤甫謹撰とあり。」 第１葉の袋とじの中に挟みものあり：紙片
〔その他・特記事項〕〔抄写年〕第３葉表に「嘉永三年庚戌夏五月上浣　恩俸生　藤澤甫謹撰」とあり（抄写時期確定のための参考として）●　本書は題簽「東畧先生稿本」の帙に収む

LH２＊甲＊19
【公開用】
〔書名〕**東畧詩存**

〔巻数など〕1帙1冊
〔著者名〕藤澤東畡　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕69葉（墨付68葉）
〔寸法〕19×13.4〔郭内〕12.3×9.6
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「東畡詩存」 外題なし
〔藏書印〕裏表紙に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕9行16字内外双行注　四周単辺有界　藍刷罫紙を用う
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ　第1葉の裏に朱書きのある貼り付けあり　奥書に「友人浅井□山墨批（墨書）」「小野□山□朱批（朱墨）」とあり
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「東畡詩存」
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕精写本　本書は題簽「東畡詩存」の帙に収む

LH2＊甲＊20-1（～20-8）
【公開用】
〔書名〕**泊園文稿**
〔巻数など〕1帙8冊
〔著者名〕藤澤東畡
〔抄写年〕
〔葉数〕（1冊目）42葉（墨付40葉）（2冊目）37葉　（3冊目）58葉　（4冊目）36葉　（5冊目）37葉　（6冊目）46葉　（7冊目）46葉　（8冊目）42葉
〔寸法〕22.5×14.8〔郭内〕18.7×12.1
〔装丁〕和綴じ
〔内題・外題〕内題「泊園文稿」 書き題簽「泊園文稿　金（石）（絲）（竹）（匏）（土）（革）（木）」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕10行17字内外双行注　四周単辺有界　藍刷罫紙を用う（一部「泊園書院」の藍刷罫紙を用う）

〔その他〕句点　書き入れ

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「泊園文稿」

〔挟みもの〕6冊目の第8葉裏と第9葉表の間に挟みものあり：筆書きによる「物夫子真蹟記」と題する一文

〔その他・特記事項〕精写本　本書は題簽「泊園文稿」の帙に収む

LH２＊甲＊21

【公開用】

〔書名〕**七香齋文叢**

〔巻数など〕1帙1冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕80葉（墨付75葉）

〔寸法〕25.5×15.2〔郭内〕17.1×10.4

〔装丁〕線装

〔内題・外題〕内題「七香齋文叢」 書き題簽「七香齋文叢　序」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕9行20字至24字内外双行注　四周双辺有界 「□□□」の朱刷罫紙を用う

〔その他〕朱点　朱墨書き入れ

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「七香齋文叢」

〔挟みもの〕表紙の前に旧時作成の書誌あり：「七香齋文叢　一冊　藤澤南岳自筆稿本　朱刷罫紙を用う。版心「□□元」」

〔その他・特記事項〕本書の紙料は中国紙で、装丁は中国の装丁「線装」ある●　南岳の文集の一部●　本書は題簽「七香齋文叢」の帙に収む

LH２＊甲＊22-１（～22-３）

【公開用】

〔書名〕**七香齋文叢**

〔巻数など〕1帙3冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕（１冊目）49葉（墨付47葉）（２冊目）60葉（墨付58葉）（３冊目）64葉（墨付63葉）
〔寸法〕23.1×15.7
〔装丁〕和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「七香齋文叢　一（二）（三）」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕10行20字内外双行注　無辺無界
〔その他〕句点　返点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「七香齋文叢」
〔挟みもの〕第１葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「七香斎文叢（書名は外題による）不分巻三冊、美濃本 〔藤澤南岳筆〕 黄表紙、第一冊　松平家記叙。校訂史記叙。大来社詩集叙、石譜序、雲漢集序、藤甞先生手写孝經序、佛道本論序、山陽詳傳叙、文語湧泉叙、日本同人詩選叙、讀仙昼居印譜序、香川縣志序、」
〔その他・特記事項〕本書は題簽「七香齋文叢」の帙に収む

LH２＊甲＊23
【公開用】
〔書名〕**七香齋文雋**
〔巻数など〕１帙１冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤黄鵠筆
〔抄写年〕
〔葉数〕57葉（墨付55葉）
〔寸法〕24.4×16.5〔郭内〕17.6×10.9
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「七香齋文叢」 書き付け外題「七香齋文雋　完」
〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕９行18字内外双行注　四周双辺有界 「七香齋藏」の藍刷罫紙を用う
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ
【内部用】

〔書名〕帙の題簽「七香齋文雋」
〔挟みもの〕書の後に旧時作成の書誌あり：「七香齋文雋　一冊、 藤澤南岳著、男章〔手写並びに〕校　共表紙、外題は南岳筆。青刷罫紙を用う。版心「七香齋藏」。大正三年六月刊本の浄書稿本か。」
〔その他・特記事項〕精写本　巻頭に目次あり　本書は題簽「七香齋文雋」の帙に収む

LH２＊甲＊24-１（～24-２）
【公開用】
〔書名〕**七香齋秘笈**
〔巻数など〕１帙２冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤黄鵠筆
〔抄写年〕
〔葉数〕（１冊目）51葉　（２冊目）44葉
〔寸法〕28×20.2〔郭内〕18.7×12.2
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「七香齋秘笈」 書き付け外題「七香齋秘笈　一（二）」
〔藏書印〕１冊目の巻末・２冊目の巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕10行22字内外双行注　四周単辺有界 「七香齋」の用箋を用う
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「七香齋秘笈」
〔挟みもの〕１冊目の第23葉裏と第24葉表に旧時作成の書誌の挟みものあり：「七香齋秘笈　二冊　藤澤恒君成著（黄鵠清書本か） 黒刷罫紙、版心「七香齋」。 内容　七香齋餘筆　独議第五笈、「文字談」「論戰新詠」独議第四笈 「探珠樂事」餘筆第七函　朱点あり　以上一冊　七香齋秘笈　吟草五古巻三 「遊屐餘痕」餘筆第八函 「探奇小録」文叢巻四　以上一冊　　安、清書は黄鵠、独議・・の文字は南岳か？」
〔その他・特記事項〕本書は題簽「七香齋秘笈」の帙に収む

LH２＊甲＊25
【公開用】
〔書名〕**［南岳先生撰文墓碣銘集］**

〔巻数など〕1帙1冊
〔著者名〕藤澤南岳
〔抄写年〕
〔葉数〕81葉（墨付43葉）
〔寸法〕20.5×14.3〔郭内〕15.5×9.9
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　外題なし
〔藏書印〕
〔版式・書式〕8行20字内外　四周双辺有界　「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う
〔その他〕句点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「南岳撰文墓碣銘」
〔挟みもの〕第31葉裏と第32葉表に旧時作成の書誌の挟みものあり：「〔南岳先生撰文墓碣銘集〕写　一冊　廿七家ノ墓碑ヲ収ム。七香齋蔵ノ罫ヲ用う　墨付四十八丁　文稿」「関西大学図書館」の用箋を用う
〔その他・特記事項〕藤澤南岳自筆か不明●　南岳撰の墓碣銘集　本書は題簽「南岳撰文墓碣銘」の帙に収む

LH2＊甲＊26-1（～26-2）
【公開用】
〔書名〕**七襄録**
〔巻数など〕1帙2冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕（1冊目）24葉（墨付19葉）（2冊目）38葉（墨付20葉）
〔寸法〕（1冊目）24.1×16.7　（2冊目）24.6×16.5
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「七襄録」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕10行内外　無辺無界
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ

【内部用】
〔書名〕帙の題簽「七襄録」　２冊目の書き付け外題の下に「地話」とあり
〔挟みもの〕１冊目の表紙の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「七襄録　二冊　南岳先生自筆（詩文稿）」「関西大学図書館」の用箋を用う　１冊目の第17葉裏と第18葉表の間に挟みものあり：筆書きの簡単なメモ　１冊目第18葉の袋とじの中に挟ものあり：筆書きの簡単なメモ　２冊目第２葉の袋とじの中に挟ものあり：筆書きの簡単なメモ　２冊目第７葉の袋とじの中に挟ものあり：筆書の簡単なメモ「逍遥游社稿本」の藍刷罫紙を用う　２冊目第８葉の袋とじの中に挟ものあり：筆書の簡単なメモ「逍遥游社稿本」の藍刷罫紙を用う　２冊目の第21葉裏と第22葉表の間に挟みものあり：筆書きの簡単なメモ３枚　２冊目の第38葉裏と裏表紙の間に挟みものあり：紙片
〔その他・特記事項〕本書は題簽「七襄録」の帙に収む

LH２＊甲＊27-１（～27-５）
【公開用】
〔書名〕**起草**
〔巻数など〕１帙５冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕（１冊目）38葉（墨付37葉）（２冊目）30葉（墨付20葉）（３冊目）17葉（墨付２葉）（４冊目）32葉（墨付24葉）（５冊目）18葉（墨付９葉）
〔寸法〕（１冊目）25.3×17.5　（２冊目）24.1×16.4　（３冊目）24.4×16.6　（４冊目）24.6×16.5　（５冊目）24.7×16.8
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「起草」
〔藏書印〕４冊目の巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕無辺無界
〔その他〕朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「起草」　１冊目の表紙の紙縒綴じの部分に書き付け「戊申」「七月」　４冊目の書き付け外題「九々幾草」（朱書き）「七輯起草」　５冊目の書き付け外題「九九幾起草」
〔挟みもの〕１冊目の表紙の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「起草（外題）一冊　藤澤南

岳筆　年代不詳　白表紙　一三×一八糎　無罫紙　六十四丁」　1冊目の第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「起草　五冊　寫　藤澤南岳自筆稿本、内一冊「戊申・七月」とあり。又表紙「七輯起草」を朱にて「九々幾草」と訂せるあり。又「九九幾起草」と題せるものあり。」　1冊目の第16葉裏と第17葉表の間に挟みものあり：「殀壽不貳」と題する追悼文の写し。藍刷罫紙を用う　1冊目の第33葉の袋とじの中に挟ものあり：筆書きの簡単なメモ　2冊目の第18葉の袋とじの中に挟ものあり：筆書きの簡単なメモ　5冊目の第3葉裏と第4葉表の間に挟みものあり：紙片4枚

〔その他・特記事項〕5冊目の第2葉に切り取りあり　5冊目の裏表紙なし　本書は藤澤南岳自筆の詩文の雑記稿か　本書は題簽「起草」の帙に収む

LH2＊甲＊28-1（～28-2）

【公開用】

〔書名〕**起草**

〔巻数など〕1帙2冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕（1冊目）38葉（墨付36葉）（2冊目）79葉（墨付70葉）

〔寸法〕（1冊目）11.9×16.1　（2冊目）13.5×18

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「起草」

〔藏書印〕2冊目の巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕朱墨書き入れ

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「起草」　1冊目の表紙の右に「大正乙卯四月」の書き付けあり　2冊目の扉に「起草」

〔挟みもの〕1冊目の第13葉裏と第14葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「起草（外題）一冊　藤澤南岳筆　大正四年（表紙に大正乙卯四月）　白表紙　一二×一六・五糎　無罫紙　三十五丁」　1冊目の第25葉裏と第26葉表の間に挟ものあり：筆書きの簡単なメモ

〔その他・特記事項〕2冊目の表紙は関大移行の後のものか●　本書は題簽「起草」の帙に収む

LH２＊甲＊29

【公開用】

〔書名〕**壽客叢録**

〔巻数など〕１帙１冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕42葉

〔寸法〕25.8×15.5〔郭内〕17.2×10.4

〔装丁〕線装

〔内題・外題〕内題「壽客叢録」　外題なし

〔藏書印〕第１葉の裏に「大久保」「利武」印　巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕９行22字内外双行注　四周双辺有界　「□□□蔵」の朱刷罫紙を用う

〔その他〕句点　返点　朱墨書き入れ

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「壽客叢録」

〔挟みもの〕第１葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「壽客叢録　一冊　藤澤南岳稿　四〇丁　九行　朱印刷罫紙　大正４年刊本」　第18葉裏と第19葉表の間に挟みものあり：筆書きの簡単なメモ２枚

〔その他・特記事項〕精写本　巻末の「泊園文庫」印、他と異なる●　中国紙●　題字に「晩香」（第１葉の表）「利武」（第１葉の裏）　本書は題簽「壽客叢録」の帙に収む

〔解題〕本書は、古今の菊の花に関する記事を収集したもの。大正四年刊本の草稿か。

LH２＊甲＊30

【公開用】

〔書名〕**醉世九劑**

〔巻数など〕１冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕50葉

〔寸法〕25.2×17.2〔郭内〕15.1×９

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「醉世九劑」　書き付け外題「醉世九劑」
〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕8行22字内外　四周双辺有界　「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う
〔その他〕句点　朱点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「醉世九劑・發揮九範」
〔挟みもの〕第8葉裏と第9葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「醉世九劑　一冊　南岳自筆（九九山人録）の署名　（「七香齋蔵」藍罫・毎半葉八行）（五十丁）」
〔その他・特記事項〕本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH 2＊甲＊31
【公開用】
〔書名〕**醉世九劑**
〔巻数など〕1冊
〔著者名〕藤澤南岳
〔抄写年〕
〔葉数〕42葉（墨付40葉）
〔寸法〕27.4×19.5〔郭内〕19×13
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「醉世九劑」　書き付け外題「醉世九劑」
〔藏書印〕24葉の裏の欄外に「□□」印
〔版式・書式〕10行23字内外　四周単辺有界　「七香齋」の用箋を用う
〔その他〕句点　朱点　返点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「醉世九劑　一冊　藤沢南岳著（九九山人録）　四〇丁　一〇行　黒色印刷罫紙　版心・「七香齋」　大正四年に大阪・和樂路屋（発売）刊本あり　自筆本に非ズ　浄写本　朱訂正入り」
〔その他・特記事項〕〔著者名〕藤澤南岳筆ではない●　本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊32

【公開用】

〔書名〕**發揮九範**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕21葉

〔寸法〕24.5×17

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「發揮九範」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕9 行内外●　無辺無界

〔その他〕句点　朱墨書き入れ

【内部用】

〔書名〕表紙右上に「未」の書き入れあり●

〔挟みもの〕第 2 葉裏と第 3 葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「發揮九範　一冊　南岳自筆　（文稿）（二十一丁）　自著文稿　初稿本」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕〔版式・書式〕9 行内外、行数字数とも不定●　本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

〔解題〕本書は「發揮九範」の未定稿か

LH 2 ＊甲＊33

【公開用】

〔書名〕**發揮九範**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕24葉

〔寸法〕25.6×17.5〔郭内〕18.8×11.8

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「發揮九範」　書き付け外題「發揮九範」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕8行18字内外双行注　四周双辺有界 「七香齋蔵」の青刷罫紙を用う（第1葉のみ「泊園書院」、10行20字の青刷罫紙を用う）
〔その他〕朱点　返点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第1葉の表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「發揮九範　一冊　南岳自筆（藤澤南岳著署名）（「七香齋蔵」藍罫・毎半葉八行）（二十二丁）」
〔その他・特記事項〕本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH 2＊甲＊34
【公開用】
〔書名〕**真珠九疇**
〔巻数など〕1冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕21葉（墨付17葉）
〔寸法〕25.5×17〔郭内〕15.1×9
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「真珠九疇」 書き付け外題「真珠九疇」
〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕8行双行注　四周双辺有界 「七香齋蔵」の青刷罫紙を用う
〔その他〕
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第16葉裏と第17葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「真珠九疇　一冊　南岳自筆（南岳手録トアリ）（「七香齋蔵」藍罫紙）毎半葉八行 （二十一丁） 名数」「関西大学図書館」の用箋を用う
〔その他・特記事項〕本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む
〔解題〕一～九に始まる名数を列挙したもの

LH 2 ＊甲＊35

【公開用】

〔書名〕**知音九奏**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳

〔抄写年〕

〔葉数〕27葉

〔寸法〕25.3×17.2〔郭内〕18.8×11.8

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「知音九奏」　書き付け外題「知音九奏」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕10行20字双行注　四周単辺有界　「泊園書院」の青刷罫紙を用う

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第14葉裏と第15葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「知音九奏　一冊　七香齋主人輯　写　二七丁（「泊園書院」藍棚界十行二十字用箋）　題字のみ南岳自筆」

〔その他・特記事項〕〔著者名〕藤澤南岳題字、本文は別の手になるか●　本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊36

【公開用】

〔書名〕**大東宝訓**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕10葉

〔寸法〕23.4×19.4〔郭内〕20.5×14.7

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「大東宝訓」　書き付け外題「大東宝訓」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕9行17字内外双行注　四周双辺有界 「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う
〔その他〕句点　返点　送り仮名　書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「大東宝訓　一冊　南岳自筆 （文稿）（十丁） 自筆文稿」「関西大学図書館」の用箋を用う
〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のものか●　本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH 2＊甲＊37
【公開用】
〔書名〕［一以貫之］
〔巻数など〕1冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕10葉
〔寸法〕25.4×20〔郭内〕15.8×9.8
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「一以貫之」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕9行20字内外双行注　四周双辺有界 「七香齋」の藍刷罫紙を用う
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「〔欠題〕 一冊　南岳自筆　十丁（首一丁ヲ欠ク）（「七香齋」藍罫・毎半葉九行） 経書から「一」の語ある章句を蒐録せるもの」「関西大学図書館」の用箋を用う
〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のものか●　書名は書き付け外題に拠っているが、表紙が関大移行以後のものであるため仮題とする●　本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊38

【公開用】

〔書名〕**韻語抄**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕7 葉

〔寸法〕25.5×19.8〔郭内〕16×9.8

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「韻語抄」 書き付け外題「韻語抄」

〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔版式・書式〕9 行19字内外双行注　四周双辺有界 「七香齋」の藍刷罫紙を用う

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕第 4 葉裏と第 5 葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「韻語抄　一冊　南岳自筆 （七丁）（七香齋ノ罫） 語句抄録」「関西大学図書館」の用箋を用う

〔その他・特記事項〕 表紙は関大移行の後のものか●　本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊39

【公開用】

〔書名〕**[徳目]**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕13葉（墨付 9 葉）

〔寸法〕27.4×20.4〔郭内〕20×13.3

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「徳目」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕10行20字双行注　四周単辺有界　「逍遥遊社稿本」の緑刷罫紙を用う
〔その他〕朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第12葉裏と第13葉表の間に挟みものあり：筆書きによる紙片「三徳　知仁勇　中庸　五事　貌言視聴思　書伝　六行　孝友睦□任恤　周礼」「逍遥遊吟社用箋」の用箋を用う
〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のものか●　書名は書き付け外題に拠っているが、表紙が関大移行以後のものであるため仮題とする●　本書は題簽「醉世九劑・發揮九範」の帙に収む

LH２＊甲＊40-１（～40-２）
【公開用】
〔書名〕**古言摘録**
〔巻数など〕１帙２冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕（１冊目）65葉（墨付52葉）（２冊目）61葉（墨付44葉）
〔寸法〕28.4×20.8〔郭内〕19.6×14.7
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「古言摘録　一（二）」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕12行24字双行注　四周双辺有界　「天製」の藍刷罫紙を用う
〔その他〕朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「名言九韵」　１冊目の書き付け外題の右に「名言九韵」（朱書き）「七香齋餘筆之一」（墨書き）　１冊目・２冊目の修正前の書き付け外題「格言叢録」●
〔挟みもの〕１冊目の第11葉裏と第12葉表の間に旧時作成の書誌の挟みものあり：「名言九韻　古言摘録（格言叢録）　二冊　南岳自筆　下（六十三丁）　上（六十六丁）　七香齋餘筆之一　語句抄録」「関西大学図書館」の用箋を用う　２冊目の第61葉の袋とじの中に挟ものあり：罫線の入った紙片
〔その他・特記事項〕本書は題簽「名言九韵」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊41

【公開用】

〔書名〕**本朝學原浪華鈔**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕11葉

〔寸法〕19.8×15.7〔郭内〕15.1× 9

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「本朝學原浪華鈔」 書き付け外題「本朝學原浪華鈔」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕8 行20字内外　四周双辺有界 「鷄窗餘筆」（版心上）「不苟書室藏」（版心下）の用箋を用う

〔その他〕書き入れ

【内部用】

〔書名〕帙の題簽「七香齋雜筆」

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕本書は題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊42

【公開用】

〔書名〕**坐右書篋**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕12葉（墨付 2 葉）

〔寸法〕19.1×13.1〔郭内〕15.1× 9

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「坐右書篋」 書き付け外題「坐右書篋」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕8 行　四周双辺有界 「鷄窗餘筆」（版心上）「不苟書室藏」（版心下）の用箋を用

う

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕本書は題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊43

【公開用】

〔書名〕**新撰月令**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕22葉

〔寸法〕19.6×14.1〔郭内〕16.2×10.2

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題「新撰月令」 書き付け外題「新撰月令」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕11行17字内外双行注　四周単辺有界 「岡島藏版」の朱刷罫紙を用う

〔その他〕書き入れ

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕表紙は関大移行の後のものか●　本書は題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊44

【公開用】

〔書名〕**［七香齋叢書零本］●**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕50葉（墨付10葉）
〔寸法〕19×12.8
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「七香齋叢書　下」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕無辺無界●
〔その他〕
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第11葉の袋とじの中に挟みものあり：罫線のある紙片
〔その他・特記事項〕〔書名〕本書は「蘭馨録」「家譜稿」「七香譜」「濯錦餘」よりなり、「家譜稿」は本書所収の篇名の一つであり、本書の書名とするには適当ではない。本書は書き付け外題からうかがえるように「七香齋叢書」の端本と考えられる。よって、本書の書名は、藤澤南岳自筆の書き付け外題に従い、仮に［七香齋叢書零本］と定めることとする●〔版式・書式〕本書は行数・字数ともに一定せず●「濯錦餘」は９行20字　本書は題簽「七香齋雑筆」の帙に収む

LH２＊甲＊45
【公開用】
〔書名〕**稗教叢書目**
〔巻数など〕１冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕28葉（墨付８葉）
〔寸法〕17.6×12.8〔郭内〕12.6×７
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「稗教叢書目」　書き付け外題「徴古逸事」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕７行双行注　四周双辺有界　「七香齋」の用箋を用う
〔その他〕
【内部用】

〔書名〕
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕
〔解題〕本書は藤澤南岳時代の泊園書院における教育関連の書目　本書は題簽「七香齋雑筆」の帙に収む

LH２＊甲＊46
【公開用】
〔書名〕**藝圃能事**
〔巻数など〕１冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕25葉
〔寸法〕17.6×12.6〔郭内〕12.6×７
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「藝圃能事」
〔藏書印〕巻末に「泊園文庫」印
〔版式・書式〕７行18字内外双行注　四周双辺有界 「七香齋」の用箋を用う
〔その他〕朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕第11葉の袋とじの中に挟みものあり：罫線のある紙片
〔その他・特記事項〕本書は題簽「七香齋雑筆」の帙に収む

LH２＊甲＊47
【公開用】
〔書名〕**賞心清事**
〔巻数など〕１冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕30葉（墨付８葉）

〔寸法〕17.6×13〔郭内〕12.6× 7
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題「賞心清事」　書き付け外題「賞心清事」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕7行19字内外双行注　四周双辺有界　「七香齋」の用箋を用う
〔その他〕朱点　書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕本書は題簽「七香齋雑筆」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊48
【公開用】
〔書名〕**史閣雑録**
〔巻数など〕1冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕18葉（墨付16葉）
〔寸法〕17.7×11.7
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「史閣雑録」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕無辺無界
〔その他〕朱点　朱墨書き入れ
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕〔版式・書式〕12行内外25字内外双行注、行数字数不定のため公開用の〔版式・書式〕欄に記載せず●　本書は［讃岐史料集成］、「七香齋類函索引」よりなる　本書は題簽「七香齋雑筆」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊49

【公開用】

〔書名〕**地名考**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕19葉（墨付14葉）

〔寸法〕19.2×13.2

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「地名考」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕無辺無界

〔その他〕

【内部用】

〔書名〕

〔挟みもの〕

〔その他・特記事項〕〔版式・書式〕16行内外双行注、行数字数不定のため公開用の〔版式・書式〕欄に記載せず●　封面に「倭文□□」（上下転倒）の書き入れあり　裏表紙に「□□」の書き入れあり　表紙の入紙に長文の書き入れあり●　本書は題簽「七香齋雜筆」の帙に収む

LH 2 ＊甲＊50

【公開用】

〔書名〕**古紙考**

〔巻数など〕1 冊

〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆

〔抄写年〕

〔葉数〕27葉（墨付 2 葉）

〔寸法〕25.8×17.4〔郭内〕15.1× 9

〔装丁〕大和綴じ

〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「古紙考」

〔藏書印〕

〔版式・書式〕8行　四周双辺有界　「七香齋蔵」の藍刷罫紙を用う
〔その他〕
【内部用】
〔書名〕帙の題簽「古紙考　古墳考　外」
〔挟みもの〕第1葉表の前に旧時作成の書誌の挟みものあり：「未成書　古紙考（外題）一冊　藤澤南岳写　二丁　八行　青色印刷罫紙　白表紙　古事類苑から抜萃したもの　版心・七香齋蔵」
〔その他・特記事項〕本書は題簽「古紙考　古墳考　外」の帙に収む

LH2＊甲＊51
【公開用】
〔書名〕**古墳考**
〔巻数など〕1冊
〔著者名〕藤澤南岳　藤澤南岳筆
〔抄写年〕
〔葉数〕19葉（墨付1葉）
〔寸法〕24.3×16.6
〔装丁〕大和綴じ
〔内題・外題〕内題なし　書き付け外題「古墳考」
〔藏書印〕
〔版式・書式〕無辺無界
〔その他〕
【内部用】
〔書名〕
〔挟みもの〕
〔その他・特記事項〕本書は題簽「古紙考　古墳考　外」の帙に収む

※本稿は平成22年度、文部科学省科学研究費若手研究（B）の研究成果の一部である。